

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, January, 2010

課長：関 勉 *T. Seki*

幹事：松本 敏一 *T. Matsumoto,*

幹事：佐藤 裕久 *H. Sato*

○1月の状況 (佐藤)

☆ P/2010 A2 (LINEAR) (写真 a, b)

1月7日発行の IAUC 9105 によると、1月6.27日 UT、LINEAR プロジェクトによって19.9等の小惑星状の天体が発見された。小惑星センターの'NEOCP'に掲載後、P. Birtwhistle (Great Shefford, Berkshire, 英国 0.40-m f/6 Schmidt-Cassegrain 反射望遠鏡, 個々20-s 露出でまっすぐな尾のある頭がない彗星であるのがわかった)ら位置観測者によって彗星状として観測された。

IAUC の発行に先立って1月7日 15:33、NEOCP 天体を観測された、東京都大田区の佐藤英貴氏から彗星課メーリングリスト (以下 oaa-comet ML という) に、「…BS03692 は非常に淡いコマと 2' 以上の長く濃い尾を持った彗星です。この彗星の astrometry には自信がありません。(頭部の集光が弱い) H06 はおそらく強風のため先ほど屋根が閉められてしまい、これ以上の観測は、本日は不可能と思います。明るい NEOCP 天体なので日本で今夜だけか確認観測できませんか?」とのコメントと、後に P/2010 A1 (Hi11) となった RA27D55 のコメントを併せて報告された。

8日 03:54、埼玉県上尾市の門田健一氏から oaa-comet ML に、「BS03692 をフォローアップしておきました。集光は弱く、位置測定がしづらい写りです。0.5 分角の淡いコマが見られ、直線状で幅が狭い尾が位置角 280 度に 5 分角

ほど延びています」とのコメントと位置観測の報告があった。

その後の観測を受けて、10日 22:46、筆者から同 ML に「…佐藤英貴さんの観測を受けて改良しました。6日の LINEAR の観測は Reject されました。周期が4年を切っています。少し不安定です」とのコメントと新しい軌道要素を報告した。

11日 13:15、高知市の下元繁男氏から同 ML に「関さんが芸西の 70cm で1月7日に恒星追尾で撮った、10分露出の2枚の画像をメトカフコンポジットしてみました、核らしきものはよくわかりませんでした。1月9日にはメトカフ追尾で2枚撮像しましたが、やはり良くわかりません。東の最先端部分を測定したものを村岡さんに残差チェックしてもらっています。280°の方向に 3.5' の尾が写っています」とのコメントと画像が紹介された (写真 a)

続いて 13:24、高知市の村岡健治氏から同 ML に「MPEC と芸西の観測を加えて計算しました。この彗星の軌道、どうみても小惑星ですねえ！形状も異常だし…分裂中?」とのコメントと軌道要素が報告された。

この頃から内外のメーリングリストで、この彗星?の形状や軌道についての論議が盛んに行われ、大型の望遠鏡もこの彗星?に向けられた。

● 眼視等観測報告

C/2007 Q3 (Siding Spring) (写真 c)

2010	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Jan.	15.71	10.0	1.5'	7	2.0'	290°	4/5	3/5	EOSX2	張替憲	*
	16.74	10.0	1.5	8	2.2	270	4/5	3/5	EOSX2	張替憲	*
	17.72	9.6	1.5	6	-	-	4/5	4/5	144×70-cmL	関勉	
	26.86	10.8	1.4	5/	-	-	4/5	-	57×25-cmL	永島和郎	**

81P/Wild (写真 d)

2010	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Jan.	13.71	10.2	2.2'	6	4.2'	290°	5/5	3/5	EOSX2	張替憲	*
	15.70	9.5	2.4	7	2.2'	290	4/5	3/5	EOSX2	張替憲	*
	16.76	9.5	2.2	7	4.5	290	4/5	3/5	EOSX2	張替憲	*
	18.70	9.2	2.9	7	4.0	290	5/5	3/5	EOSX2	張替憲	*
	26.83	10.0	1.5	6	-	-	4/5	-	57×25-cmL	永島和郎	**

* 200-mm f/2.8 lens 180 秒露出 ** イプシロン F=3.4

○ その他 1 月に発見された彗星

☆ P/2010 A1 (Hill) R. E. Hill (LPL, 月惑星研究所)は、1 月 6.46 日 UT、Catalina の 0.68-m Schmidt 望遠鏡で得た CCD イメージから 17.6 等の彗星を発見した。小惑星センターの 'NEOCP' ウェブページに掲載後、井狩康一氏 (滋賀県守山市, 26-cm f/7 反射) や佐藤英貴氏 (東京都大田区, Mayhill 近郊リモート 25-cm 反射使用) ら位置観測者によって彗星状として観測された (IAUC 9104, 2010 Jan. 7)。

☆ P/2010 A3 (Hill) R. E. Hill は、1 月 8.1 日 UT、Catalina の 0.68-m Schmidt 望遠鏡で得た CCD イメージから 17.3 等の彗星を発見した。'NEOCP' ウェブページに掲載後佐藤英貴氏 (Mayhill 近郊リモート 25-cm 反射使用) や門田健一氏 (埼玉県上尾市, 25-cm f/5 反射) ら位置観測者によって彗星状として観測された (IAUC 9106, 2010 Jan. 9)。

☆ C/2010 A4 (Siding Spring) G. J. Garradd は、1 月 12.72 日 UT、Siding Spring の 0.5-m Uppsala Schmidt 望遠鏡で得た CCD イメージから 18.7 等の小惑星状天体を発見した。'NEOCP' に掲載後、Garradd はこの天体が p. a. 150° に約 10" に細長くなっていることを報告した。W. H. Ryan (Magdalena Ridge 天文台, 2.4-m f/8.9 反射) ら他の CCD 位置観測者によって彗星状として観測された (IAUC 9107, 2010 Jan. 14)。

☆ P/2010 A5 (LINEAR) 1 月 14.45 日 UT、LINEAR プロジェクトにより 17.7 等小惑星状天体が発見された。'NEOCP' に掲載され、R. Ligustri (Udine, イタリア, RAS 天文台, Mooroo 近郊, オーストラリアの 0.32-m f/9 反射の遠隔操作) や佐藤英貴氏 (Mayhill 近郊リモート 25-cm 反射使用) や他の CCD 位置観測者によって彗星状として観測された (IAUC 9108, 2010 Jan. 16)。

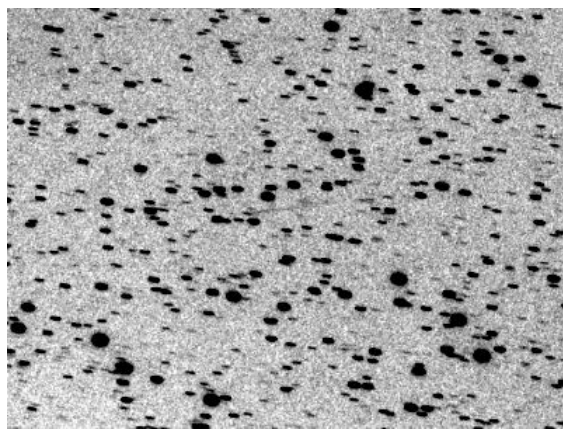
☆ C/2010 B1 (Cardinal) 1月19.22日 UT、
R. D. Cardinal (Rothney 天体物理天文台、
Calgary 大学, 0.50-m f/1.0 反射)によって
17.7等の天体が発見された。'NEOCP' ウェブ
ページに掲載後、井狩康一氏 (26-cm f/7 反射、
0.2'のコマがある)ら数人の位置観測者によっ
て彗星であることが観測された (IAUC 9113,

2010 Jan. 29)。

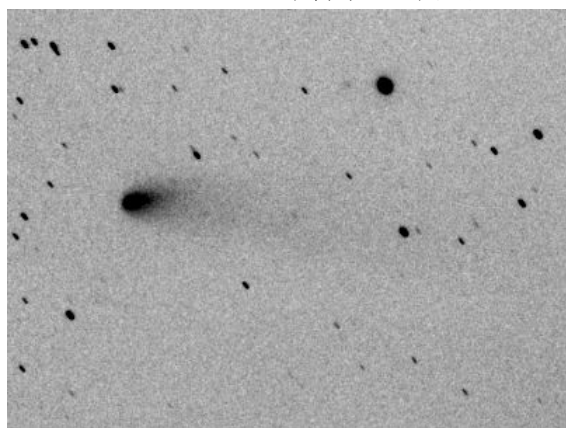
その他明るい彗星は、118P/Shoemaker-Levy,
30P/Reinmuth, 29P/Schwassmann-Wachmann,
P/2009 Q4 (Boattini), 217P/LINEAR 等であつ
た。



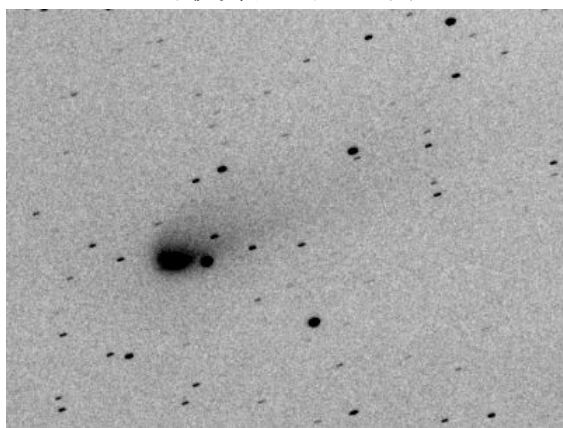
(写真 a) P/2010 A2 (LINEAR) 2010, 01, 07
23h01m+23h11m (JST) exp. 10m×2 70-cmL+D700
© 2010 芸西天文学習館 + 関 勉



(写真 b) P/2010 A2 (LINEAR) 2010, 01, 15
0h01.5m-29.5m (JST) exp. 60s×19 TOA130+CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 c) C/2007 Q3 (Siding Spring) 2010, 01, 20
4h55.0m-5h05.0m (JST) exp. 60s×7 TOA130+CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 d) 81P/Wild 2010, 01, 20
4h11.0m-21.0m (JST) exp. 60s×7 TOA130+CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏